

ゴッホ

【ゴッホの生涯を子どもたちはどのようにとらえるのだろうか】

この絵を見てください。

この絵は「アルルの跳ね橋」というフランス南部の風景を描いた絵です。

私はこの絵が大好きです。温かな日射し、澄んで透明な空気、そこにいる人の穏やかな生活を、一枚の絵で表現しているようです。

この絵を描いた人は、ゴッホという人です。

1853年に生まれ1890年、37歳で亡くなったオランダの画家です。

ゴッホを有名にした1枚の絵があります。

向日葵という絵です。この絵を1989年(平成元年)ある日本の会社が53億円で買いました。

53億円と言われてもピンと来ないかも知れませんが、しばらく前に話題になった森友学園を作る予算が21億円とか言っていましたから、53億円あれば伊那中が2つくらい作れることになります。この1枚の絵で、学校を2つ作れると言うことです。

ゴッホという人の生涯は、壮絶な人生でした。

オランダでは、画商、絵を売る仕事ですねや牧師やをやっていましたが、首になったりして、フランスパリに出て絵を描き始めます。

その後画家達がみんなで絵を描けるよう、南フランスに移りますが、その呼びかけに応じたのはゴーギャンという画家だけでした。ゴーギャンとの共同生活も長くは続かず、絶望したゴッホは自分の耳を切り落とします。その後、精神を病み、病院生活を続け、最後は拳銃で自殺をしてしまいます。その間に、描いた絵は2000枚以上ですが、売れた絵は一枚だけとされています。

絵が売れないと言うことは、収入がないわけで、食事も絵の具を買うこともできません。ゴッホの生活を支えたのは、弟のテオでした。テオは自分の働いて得た収

入から、兄ゴッホに仕送りを続け、生活を支えました。

今、ゴッホの絵は非常に高い値段でないと買えませんが、それはゴッホが死んでからです。生きていた間は、ゴッホの絵は評価されず、貧乏な生活でした。

ゴッホは弟テオの隣で眠っています。テオは、ゴッホが自殺した1年後に後を追うようになくなりました。

私は、ゴッホの人生を考えることがあります。絵を描くという自分の好きなことを生涯続けたゴッホ。しかしその絵は評価されることなく、貧乏な一生でした。そして、ゴッホの死後、絵は評価され、今では非常に高値で売り買いされているのです。

ゴッホは幸せな人生だったのでしょうか。人の人生の幸せとは何なのでしょう。

でも、私はゴッホの絵が大好きです。